

3. 上衣腫の病理：その多様な組織像

新宅雅幸 先生(大阪赤十字病院 病理部)

上衣腫 (ependymoma) は上衣細胞への分化を示す glioma の一種である。Glioma の約5%を占め、小児、若年者の脳室近傍領域や脊髄に好発する。上衣細胞は上皮細胞性格とグリア細胞性格の2つを共有するユニークな細胞であり、その二重性格は腫瘍においても発現が見られる。

上衣腫の組織診断は、① 周囲脳組織との境界が明瞭 (astrocytoma との重要な鑑別点)、② ependymal rosette (上皮細胞性格)、③ perivascular pseudorosette (グリア細胞性格) の3項目が基本であり、多くの場合それほど難しくはない。但し ependymal rosette の出現頻度は 50% 以下と言われている。診断の補助手段としては GFAP と EMA の免疫染色が必要かつ十分であり、また電顕所見が診断に決定的役割を果たすことがある。

以上のような基本的知識を踏まえた上で、今回の講演では、まず上衣腫の示す案外多彩な組織像の variation について述べる。現行の WHO 分類で取り上げられている上衣腫の亜型は cellular ependymoma、papillary ependymoma、clear cell ependymoma、tancytic ependymoma の4つであり、これらはいずれも grade II とされているが、clear cell ependymoma はやや予後不良であり、注意を要する。またそれらとは別に grade I の腫瘍として myxopapillary ependymoma、subependymoma がある。各亜型について、その組織像を提示して、それぞれの特徴を述べる。また独立した亜型として採用されていないが、稀に遭遇する亜型として、vacuolated ependymoma、giant cell ependymoma などの症例を紹介する。

次に、明確な診断基準が未だ確立されておらず、問題が多い anaplastic ependymoma (WHO grade III) について、症例を提示して述べる。さらに、従来組織起源不明とされてきたいくつかの脳腫瘍 (astroblastoma、chordoid glioma of the third ventricle、papillary tumor of the pineal region、angiocentric glioma) が、上衣腫と深い関係があることが近年明らかにされつつあるので、時間が許せばそのことにも言及したい。